



サンコール株式会社（証券コード：5985）

個人投資家向けWEB説明会

2023.2.20

[説明会動画はこちら](#)

AGENDA

I. 会社概要

II. 2023年3月期 第3四半期 決算概要

III. 2023年3月期 業績見通し

IV. 中長期の成長戦略

Purpose 技術をより良い世界のために

次世代事業への挑戦

将来

第二次成長期
(電子情報通信分野への参入)

現ポジション

第一次成長期
(自動車関連事業の確立)

創業期

1943年

創業

飛行機エンジン用
弁ばねの開発製造を目的として、
空爆のない京都で創業

ばね製造

戦中に潜水艦でドイツから運ばれ
てきて軍の小倉工場にあったもの
を譲り受けて生産



当時のコイルマシン
(京都本社写真)

妥協は許さない
いのちを乗せるものづくり



エンジン部品



ミッション部品

安全部品



需要は
今後も拡大

独自の微細加工技術で
世界のビックデータを管理する

ローラ



光コネクタ



HDDサスペンション



モータ・電気部品
(EV製品)



環境・エネルギー新素材
「竹炭」



医療・介護



社名 : サンコール株式会社 SUNCALL CORPORATION

設立 : 1943年6月

資本金 : 48億8百万円

本社 : 京都市右京区梅津西浦町14番地

証券取引所 : 東京証券取引所 プライム市場

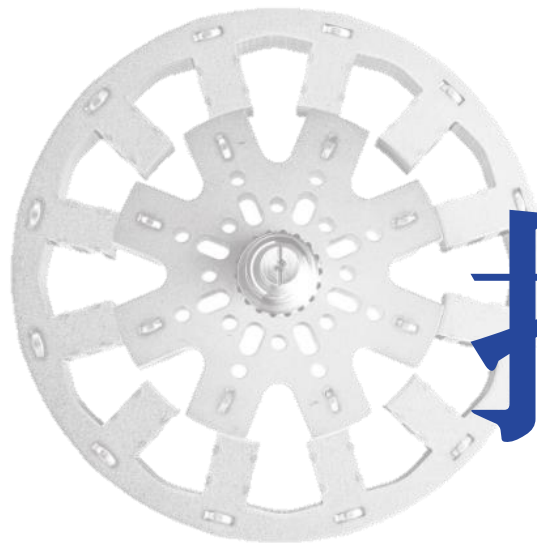
従業員数 : 2,241名（連結） 646名（単体）

主要株主 : 日本マスタートラスト信託銀行(株)
(退職給付信託口・(株)神戸製鋼所口) 16.7%
伊藤忠丸紅鉄鋼(株) 12.6%
伊藤忠商事(株) 9.8%

(2022年9月末時点)

技術をより良い世界のために

技翔創変



サンコールは『技翔創変』という経営理念の基で企業の飛躍に邁進しております。

技翔

技術を飛翔させていくこと

特異な技術無くして、SUNCALLは存在し得ない

創変

変化を自分で作りだしていくこと

世の中の変化をリードし、創造していく

材料から加工まで一貫生産

材料関連事業・弁ばね用鋼線 精密異形線



一貫生産を支える当社の芯。数々の独自技術に展開するコア事業。安心・安全・高品質で新規領域へ

①弁ばね



国内シェアトップクラス。材料から加工まで一貫生産により、高品質、1億回の伸縮にも耐えられる高耐久性を実現。

②リングギア・ドライブプレート

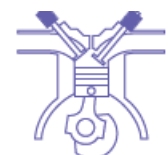


国内シェアトップクラス。独自の金属加工技術で高精度を実現。

③シートベルト用ゼンマイばね



材料から製造するため、精密なトルクの調節が行え、快適性を実現。

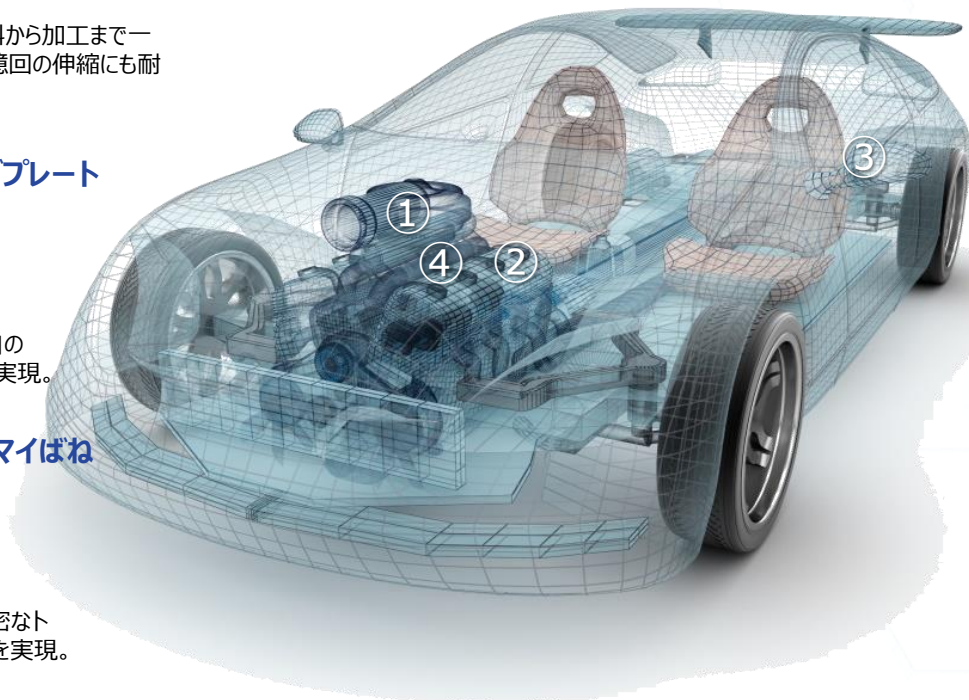


エンジン部品

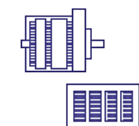


ミッション部品

安全部品



モーター・電気部品



④バスバー

ユニットの形状に合わせて個別に設計。これからの配線の主役。



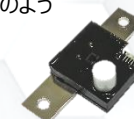
④シャントonバスバー

バスバーに流れる電流検知できるバスバー一体型センサー。EV車に搭載されるリチウムイオン電池のような大電流にも対応。



④シャントセンサー

シャントバスバーにIC基盤を搭載。検知電流をデジタル・アナログ形式で出力できる機能を付加した高付加価値品。



④モーターコア・ステーターコア

モーターの芯を構成する部品。当社は自動で一貫生産し、高い生産性を実現。



データ社会を支えるキーデバイス

プリンター



プリンター関連製品

長尺・軽量・高精度シャフト
供給によりW/Wトップシェア

ローラー



トルクリミッター
スプリングクラッチ



HDD用サスペンション

HDD



HDD磁気ヘッドを、数十ナノメートル単位で位置決めする極限レベルの精度要求に対応

データセンター

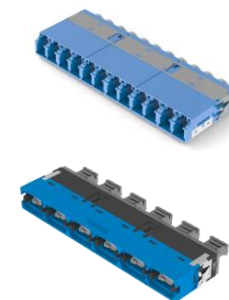


通信関連製品

光コネクタ



光アダプタ



国内14拠点

本社	京都府京都市
生産拠点	
本社工場	
京都南工場	京都府京都市
豊田工場	愛知県豊田市
広瀬工場	愛知県豊田市
国内子会社	
サンコールエンジニアリング株式会社	山梨県南アルプス市
サンコール菊池株式会社	熊本県菊池市
営業拠点	
東京支店	神奈川県横浜市
名古屋支店	愛知県豊田市
西日本支店	京都府京都市
上田営業所	長野県上田市
北関東営業所	栃木県宇都宮市
浜松営業所	静岡県浜松市
近畿営業所	京都府京都市
西日本営業所	広島県広島市

海外7カ国15拠点

国	地域	出資比率	生産品目
アメリカ	インディアナ州	100%	弁ばね、リングギアほか
	サウスカロライナ州	100%	光通信部品（販売拠点）
	テキサス州	100%	
メキシコ	アグアスカリエンテス州	100%	弁ばね用材料、リングギア
	アグアスカリエンテス州	50%	シートベルト用ぜんまいばね
中国	広州	100%	弁ばね、リングギアほか
	広州	100%	弁ばね用材料（販売拠点）
	佛山	25%	弁ばね用材料
	天津	100%	リングギア
	深圳	100%	プリンター用ローラー、光通信部品ほか
	香港	100%	
タイ	チョンブリ県	100%	弁ばね、リングギア シートベルト用ぜんまいばね プリンター用ローラーほか
ベトナム	ハノイ	100%	プリンター用ローラーほか
韓国	梁山	49%	シートベルト用ぜんまいばね材料
フィリピン	マニラ	100%	HDD用サスペンション（駐在員事務所）

2022年8月より株式会社アイメスと資本業務提携いたしました

社名	株式会社アイメス	本社所在地	神奈川県藤沢市
出資比率	41.5%	海外拠点	フィリピン、タイ



AGENDA

I. 会社概要

II. 2023年3月期 第3四半期 決算概要

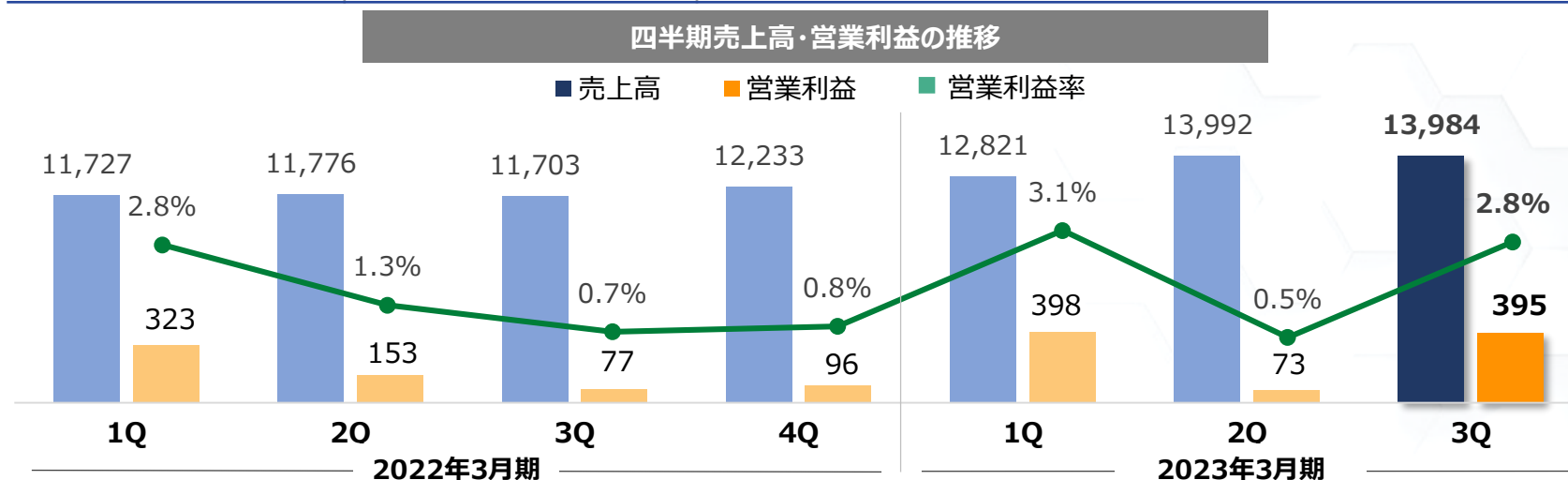
III. 2023年3月期 業績見通し

IV. 中長期の成長戦略

自動車生産の回復遅れ、下期からHDD用サスペンションの売上計画未達があるものの
為替影響により前年同期比増加

前年同期比 売上+5,592百万円 / 営業利益+314百万円 の増収増益

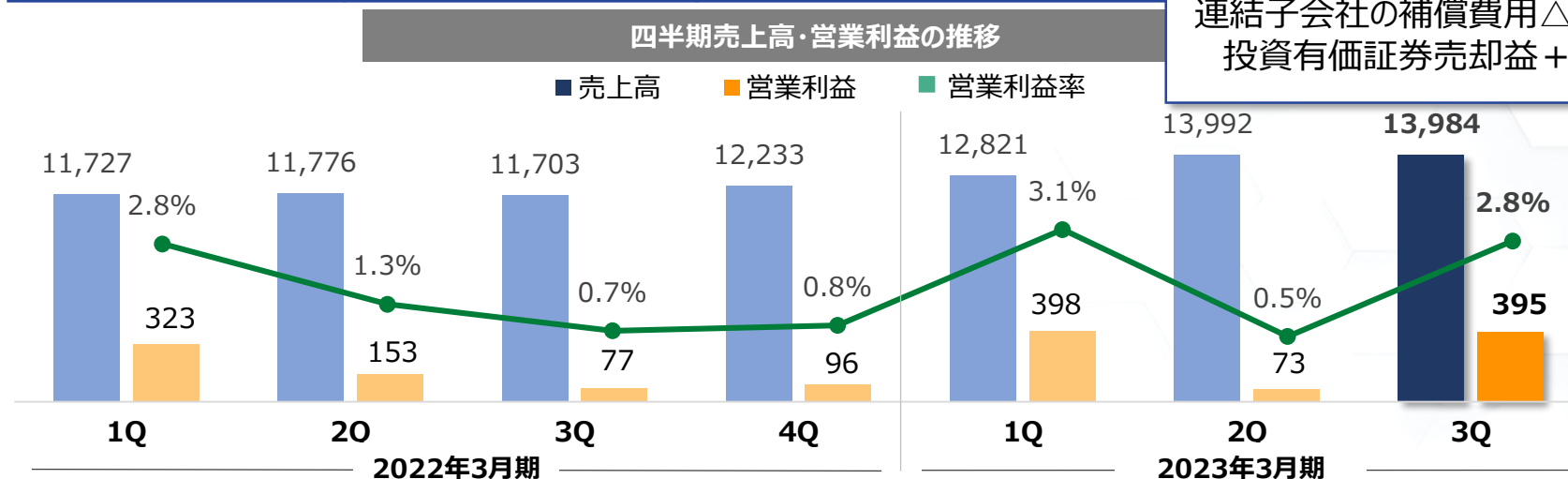
単位：百万円	2022年3月期 第3四半期		2023年3月期 第3四半期	
	実績	実績	前期比	
売上高	35,205	40,798	+5,592	+15.9%
営業利益	553	867	+314	+56.8%
経常利益	848	1,296	+448	+52.8%
当期純利益	546	916	+369	+67.5%
EPS	17.53円	30.51円		



自動車生産の回復遅れ、下期からHDD用サスペンションの売上計画未達があるものの
為替影響により前年同期比増加

前年同期比 売上+5,592百万円 / 営業利益+314百万円 の増収増益

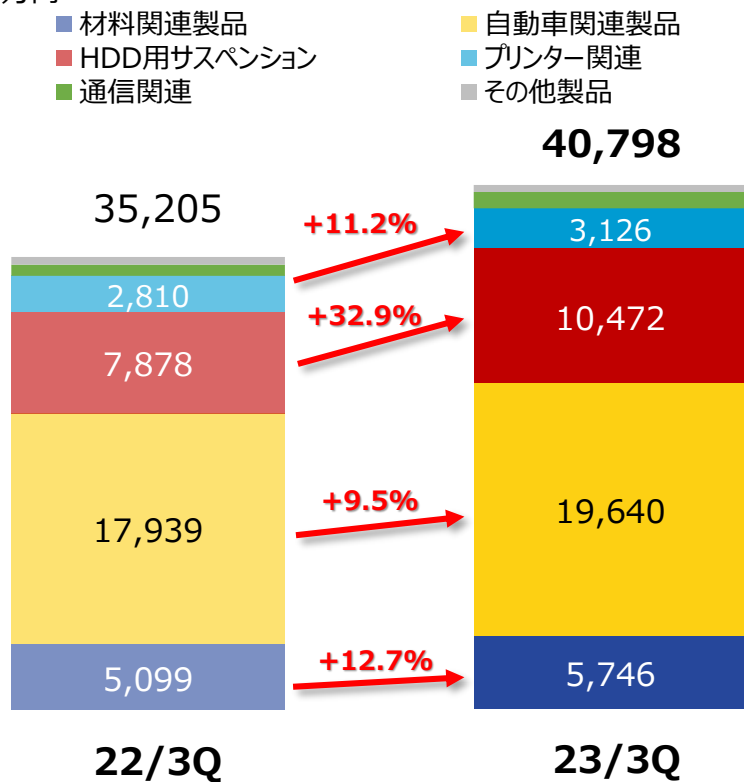
単位：百万円	2022年3月期 第3四半期		2023年3月期 第3四半期	
	実績	実績	前期比	
売上高	35,205	40,798	+5,592	+15.9%
営業利益	553	867	+314	為替影響 + 4,082百万円
経常利益	848	1,296	+448	+52.8%
当期純利益	546	916	+369	+67.5%
EPS	17.53円	30.51円		



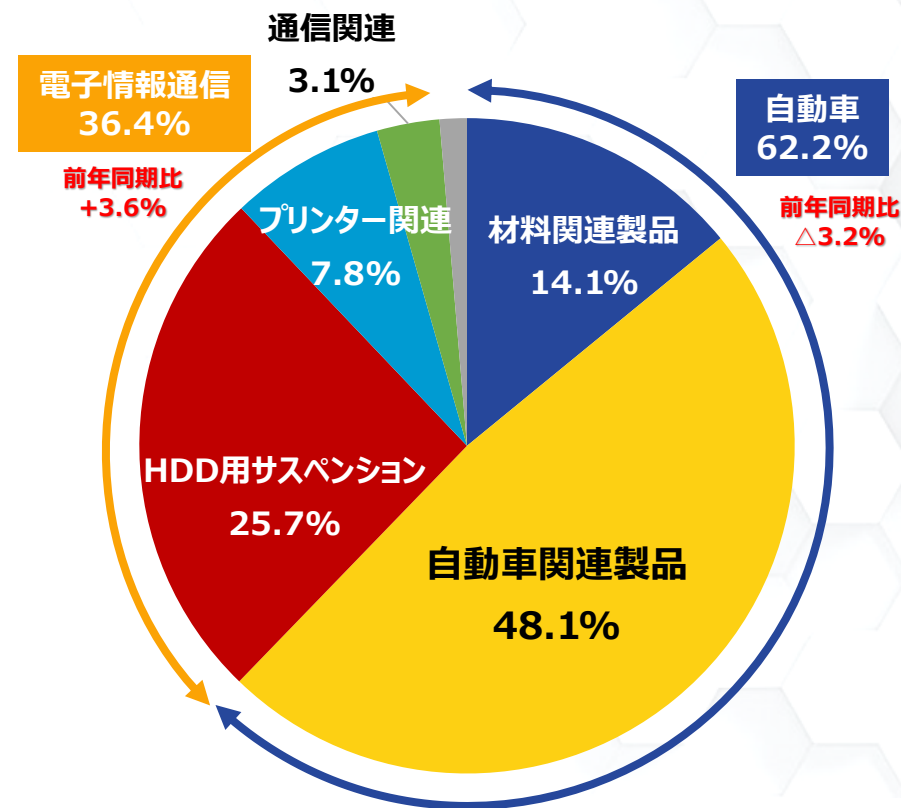
◆ 自動車分野	材料関連 自動車関連	半導体不足による自動車減算影響が継続しているが、バスバーやLED関連等の電動化関連製品が大きく増加したことや、為替影響+1,434百万円により増加
◆ 電子情報通信分野	HDD用 サスペンション	各国の金融引き締めや景気後退の懸念によりデータセンター向け投資抑制の影響が発生し3Qは低調。全体としては為替影響+2,646百万円もあり前年同期比+32.9%の増収

第3四半期累計売上高の推移

単位：百万円



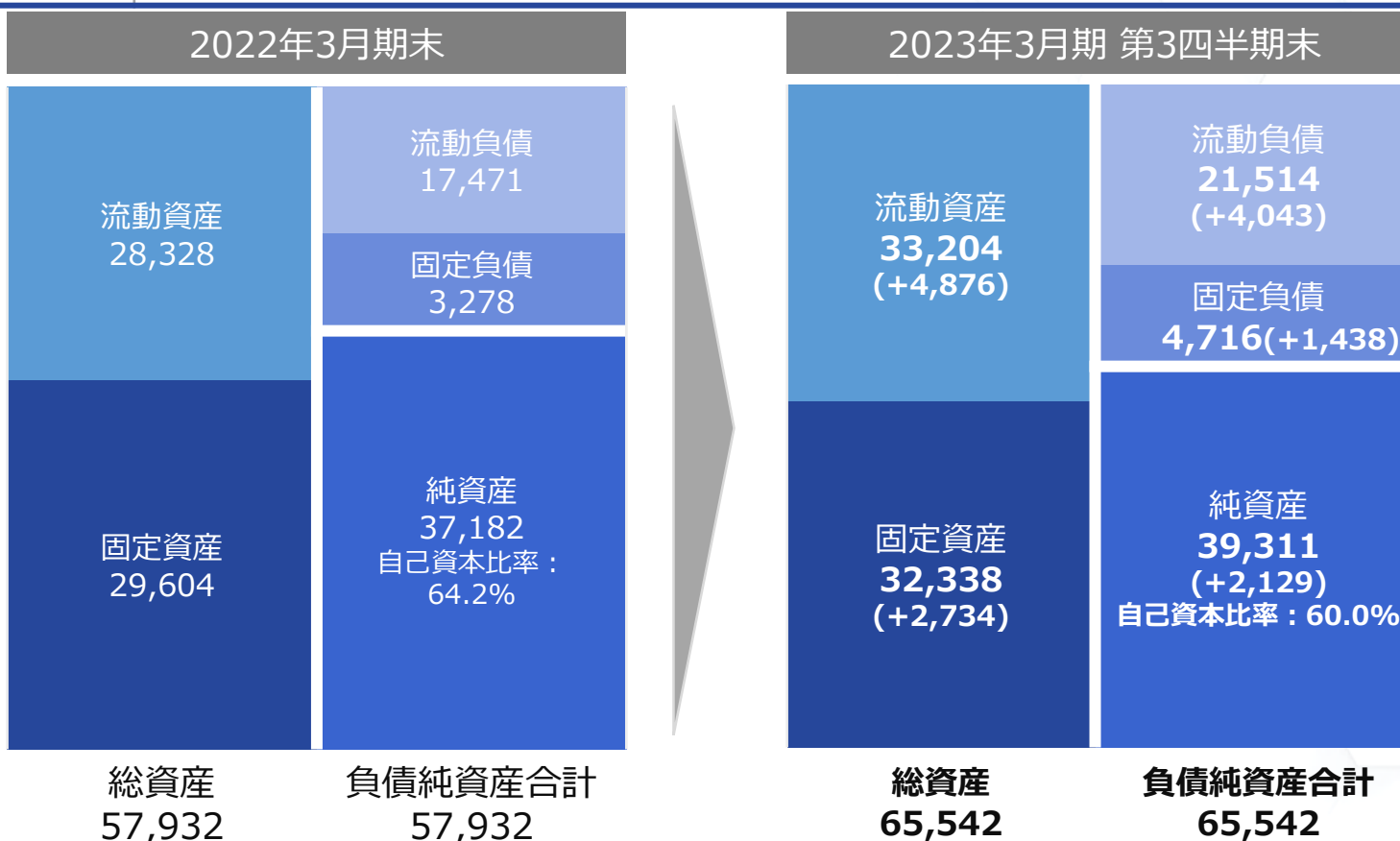
第3四半期累計売上高 構成比



2022年3月期 連結貸借対照表

◆固定資産増加	積極的な設備投資による有形固定資産増加+1,786百万円 資本業務提携による関係会社株式+1,719百万円、売却による投資有価証券▲761百万円
◆流動負債増加	買掛金+269百万円、短期借入金+2,119百万円、未払金+1,142百万円
◆純資産増加	当期純利益+916百万円、配当金▲668百万円 その他有価証券評価差額金▲377百万円、為替換算調整勘定+2,278百万円

単位：百万円



AGENDA

I. 会社概要

II. 2023年3月期 第3四半期 決算概要

III. 2023年3月期 業績見通し

IV. 中長期の成長戦略

11月11日公表予想を下方修正

景気後退の懸念によりHDD用サスペンション低迷が継続
 また、半導体不足に伴う自動車減産影響の継続により自動車分野の売上高減少

売上高 **53,000百万円**

11/11予想比： $\Delta 4,000$ 百万円($\Delta 7.0\%$)
 前期比： $+ 5,562$ 百万円($+ 11.7\%$)

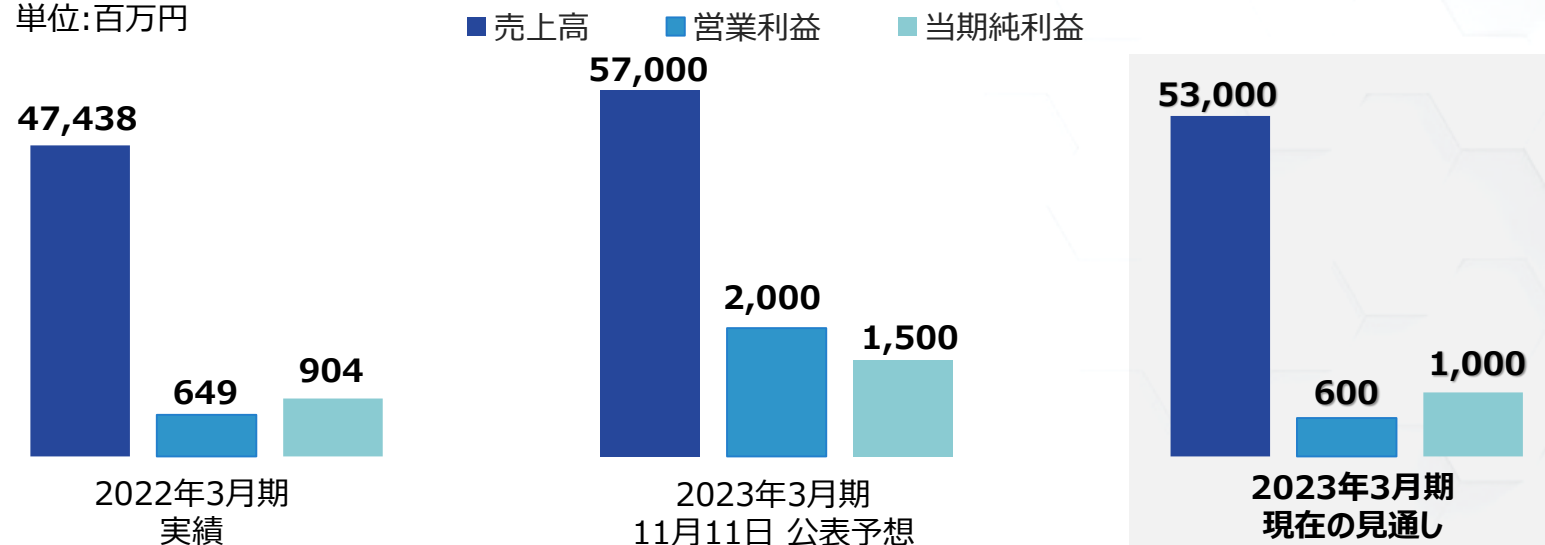
営業利益 **600百万円**

11/11予想比： $\Delta 1,400$ 百万円($\Delta 70.0\%$)
 前期比： $\Delta 49$ 百万円($\Delta 7.6\%$)

当期純利益 **1,000百万円**

11/11予想比： $\Delta 500$ 百万円($\Delta 33.3\%$)
 前期比： $+ 96$ 百万円($+ 10.6\%$)

単位:百万円



11月11日公表予想を下方修正

景気後退の懸念によりHDD用サスペンション低迷が継続
また、半導体不足に伴う自動車減産影響の継続により自動車分野の売上高減少

売上高 53,000百万円

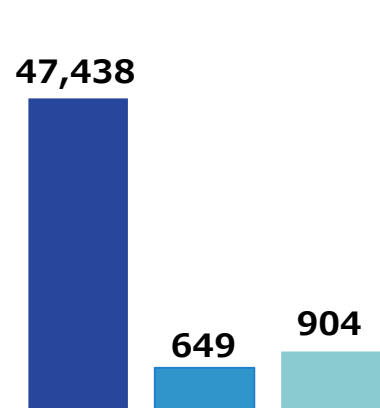
11/11予想比: $\Delta 4,000$ 百万円($\Delta 7.0\%$)
前期比: +5,562百万円(+11.7%)

営業利益 600百万円

11/11予想比: $\Delta 1,400$ 百万円($\Delta 70.0\%$)
前期比: $\Delta 49$ 百万円($\Delta 7.6\%$)

当期純利益 1,000百万円

単位:百万円



■ 売上高

対11/11前回予想比 概要	売上	営業利益
自動車生産の回復遅れ	$\Delta 9.8$ 億円	$\Delta 3.6$ 億円
景気後退懸念による HDD用サスペンション データセンター投資減少	$\Delta 16.0$ 億円	$\Delta 4.3$ 億円
通信関連	$\Delta 2.1$ 億円	$\Delta 0.9$ 億円
為替影響(下期140円/ドル \Rightarrow 133.3円/ドル)	$\Delta 9.0$ 億円	$\Delta 5.0$ 億円
その他	$\Delta 3.1$ 億円	$\Delta 0.2$ 億円
合計	$\Delta 40.0$ 億円	$\Delta 14.0$ 億円



2022年3月期
実績

2023年3月期
11月11日 公表予想

2023年3月期
現在の見通し

中期経営計画GPP24資本戦略

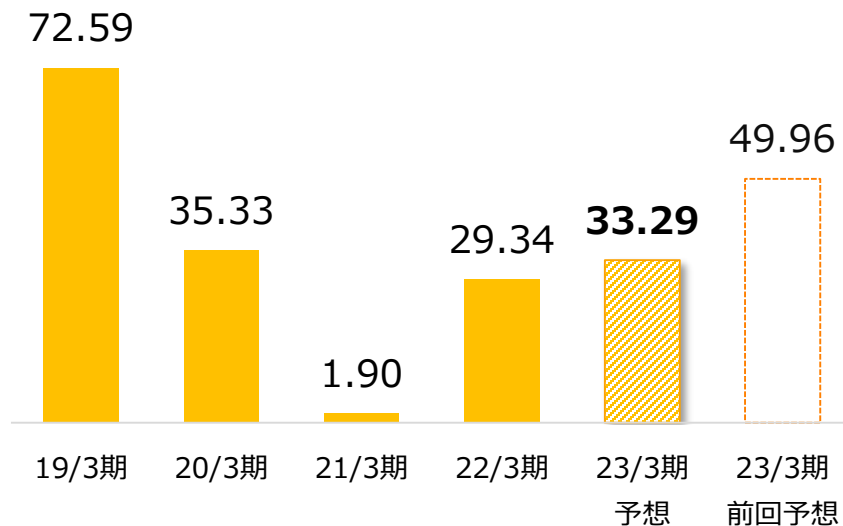
最適な資本構成を意識したBSマネジメントの推進

配当方針

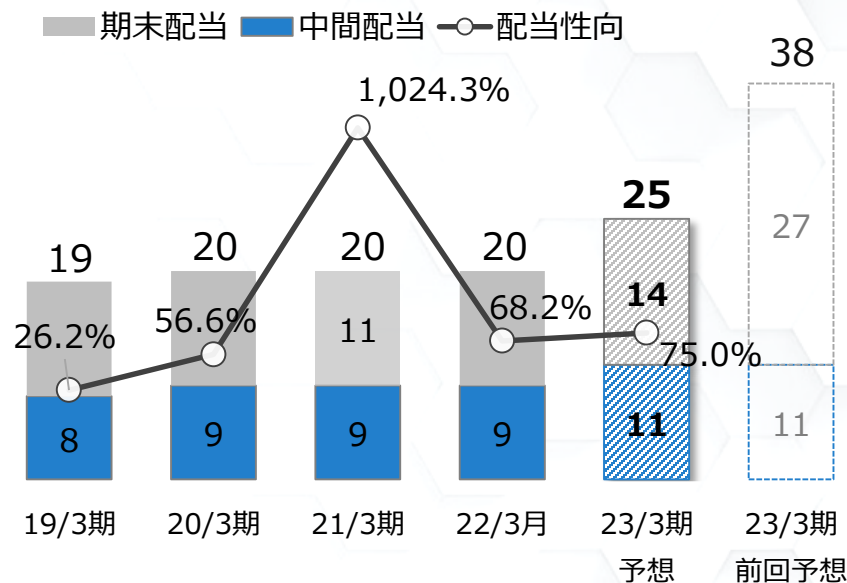
ROE9.0%を超過するまで配当性向を75%とする

※配当下限20円は継続

EPSの推移



一株当たり配当金(円)・配当性向の推移



※今後業績予想が修正される場合、配当方針に基づき修正されることとなります。

AGENDA

I. 会社概要

II. 2023年3月期 第3四半期 決算概要

III. 2023年3月期 業績見通し

IV. 中長期の成長戦略



2030年の事業ポートフォリオ確立に向けた実効的な戦略の加速

事業戦略

EV等電動化関連成長事業 －グローバルに売上拡大・次世代主力事業へ－

- ・ 電動車ニーズに応えるべく「バスバー」、「シャントバスバー」の量産拡大
- ・ EV等電動化製品の欧州・中国・米国での拡販の展開

電子情報通信関連成長事業 －飛躍的成長の実現・利益成長の追求－

- ・ 顧客需要への対応に向けた設備投資継続と生産効率向上
- ・ 大容量ハードディスクドライブの需要に応えるべくサスペンションの生産能力強化
- ・ 通信関連/プリンター関連は製品開発、工法改善を通じ、生産効率を向上させる

自動車関連既存事業 －産業構造の変化に対応・収益力改善－

- ・ 製品別に市場成長性と収益性を検証
- ・ 徹底的な製品別収支管理により、既存案件の収益力改善に注力
- ・ 生産・営業拠点の最適化を検討

資本戦略

最適な資本構成を意識したBSマネジメントの推進

- ・ ROE9%を超過するまでは配当性向75%を維持し、自己資本の積み増しを抑制
- ・ 資本コストを意識した投資判断の徹底

GGP24定量目標

売上高
630億円

営業利益率
7.1%

ROE
9.0%

2021年度
実績

2022年度
見通し

2024年度

Global Growth Plan 2024

2030年の事業ポートフォリオ確立に向けた実効的な戦略の加速

変化から成長へ

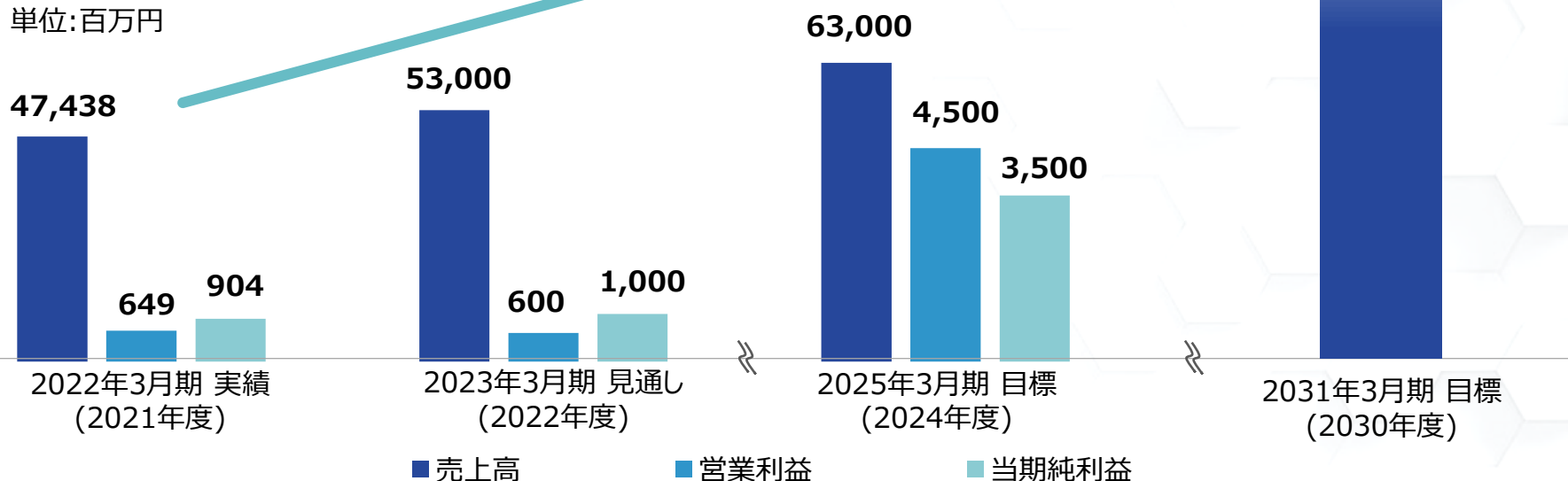
- 売上高 630億円
- 営業利益率 7.1%
- 安定的にROE9.0%を超過する為に資本収益性とBSマネジメントを意識した経営を推進
- 事業ポートフォリオ改革の始動
- 成長分野への大胆な経営資源投入
- 投下資本の確実な回収

2030年度

事業ポートフォリオの最適化を追求

- 関連技術の応用と新規事業
- 付加価値の創出

単位:百万円



◆EV等電動化車関連事業

➤ 2022年度実績（前年度比較）

・電動車向けバスバーの国内自動車メーカー2社採用に加え、シャントバスバー量産開始他好調に伸長

➤ 今後の見通しおよび対策

・電流センサーは、従来のシャント方式に加えて磁気式センサーの開発が完了。
 ・世界的な自動車電動化の流れは継続。
 ・電流センサーの欧州・北米での拡販体制、国内での開発・生産体制整備を推進。

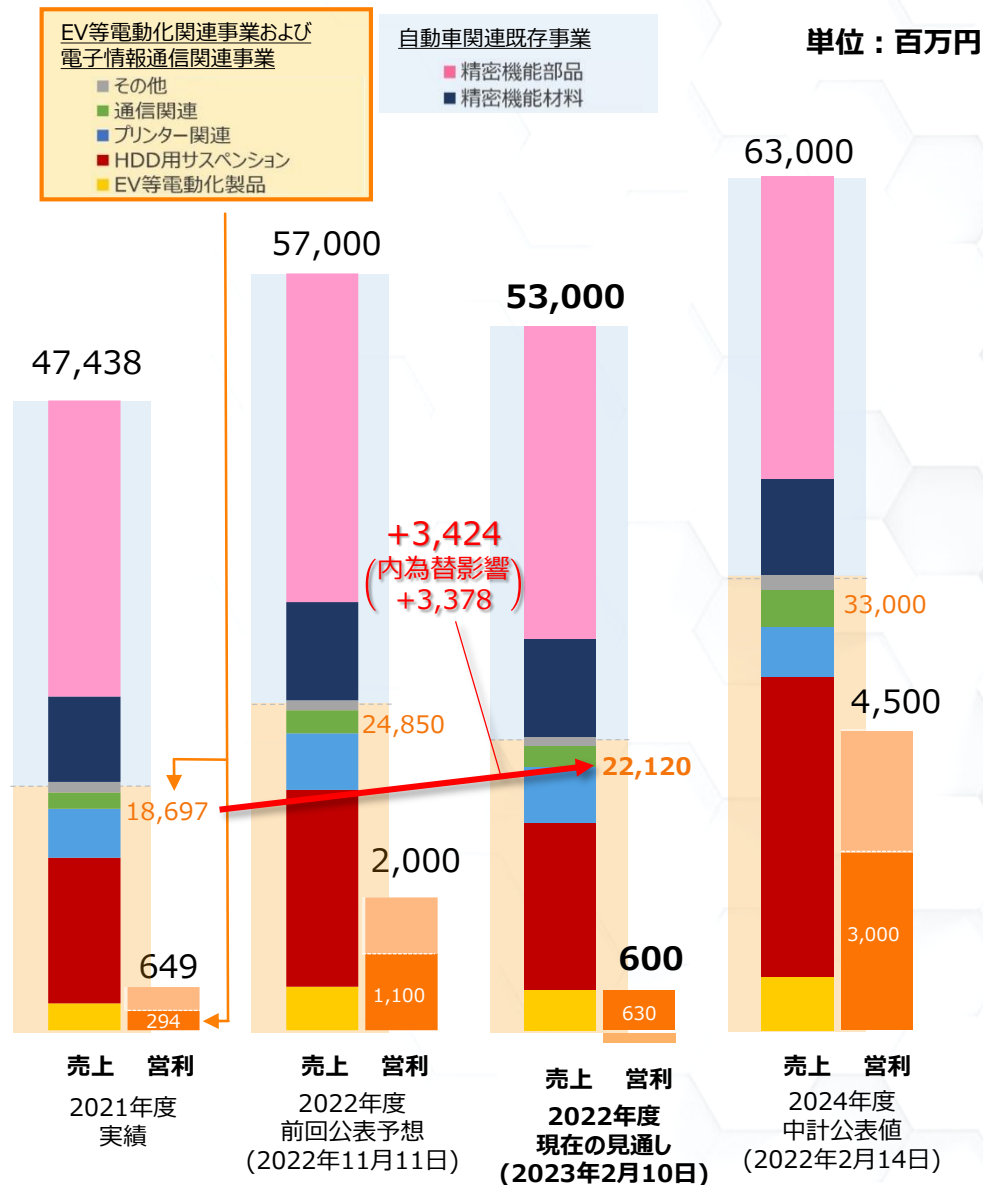
◆電子情報通信関連事業

➤ 2022年度実績（前年度比較）

・景気後退懸念によるデータセンター向け投資抑制の影響を受け下期売上高が減少するが、全体としては為替影響+3,378百万円により増加。一方で、新機種立ち上げに伴う償却費他、固定費増加により足元の利益は伸び悩み。

➤ 今後の見通しおよび対策

・サスペンション事業は一時的な受注減が2023年度前半までは継続する見込みだが、データセンター向け大容量HDDの高い需要は継続しており、2023年度半ばから回復する見込み。
 資本業務提携した株式会社アイメス社との協業による生産性改善を強力に進める。
 ・通信関連製品についても同様に2023年度半ばより回復見込み。



◆自動車関連既存事業

▶ 2022年度実績（前年度比較）

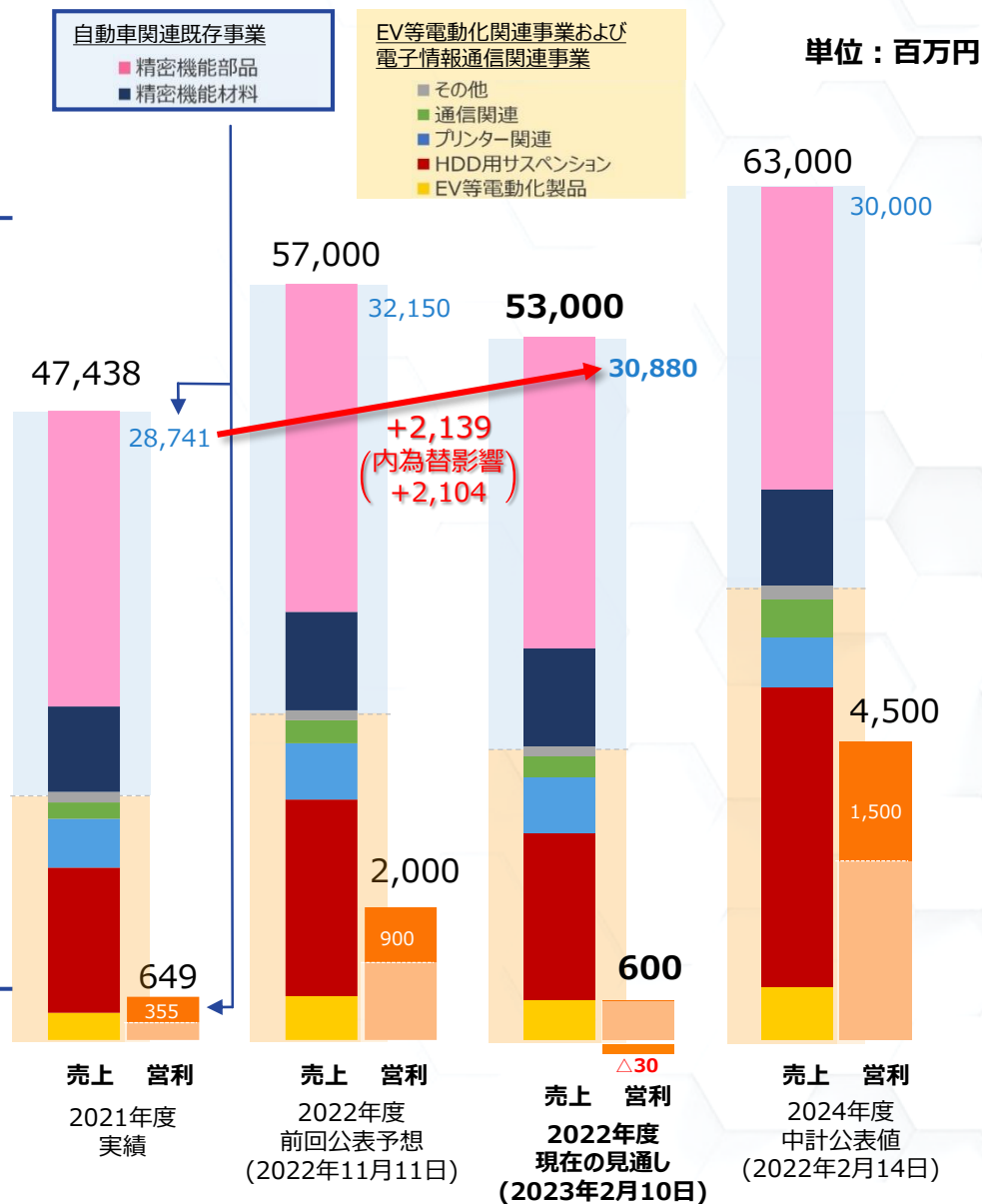
半導体不足に伴う自動車減産の影響を受けるが、鋼材価格高騰分の価格反映および為替影響+2,104百万円により売上高は増加。一方で、エネルギー費や副資材費高騰他に伴う収益性悪化により赤字転落。

▶ 今後の見通しおよび対策

自動車電動化の加速により内燃機関構成部品の市場成長性は見込めないものの、売上規模は維持。

▶ 収益改善に向けた対策

- ・エネルギー費や副資材費等高騰分の価格転嫁
- ・資本収益性の観点から製品戦略の見直し
- ・生産性最適化に向けた拠点統廃合の検討
- ・投資や人員等の経営資源の配分見直し



「材料から製品までの一貫生産」守り続けた技術から 新たな領域を目指します。>>>>

溶接 曲げ

ダイス成型

圧延

精密塑性加工技術

■5G・IOT化により拡大する
データ社会への対応

光通信事業事業
HDD用サスペンション事業

■気候変動への対応

バスバー事業
電流センサー事業
車載LED事業
竹炭サステナブル事業

■高齢化社会への貢献

リハビリロボット事業
超音波センサ(開発)

5G・IOT化により拡大するデータ社会への対応 HDD用サスペンション事業



サンコール電子情報通信分野の柱。クラウドストレージ容量需要の大幅な伸びに対して、ニアライン向けHDDの需要は今後も増加。



P.IMES社

2022年8月

アイメス社との資本業務提携契約により 生産技術力の向上



2021年度 売上109億円

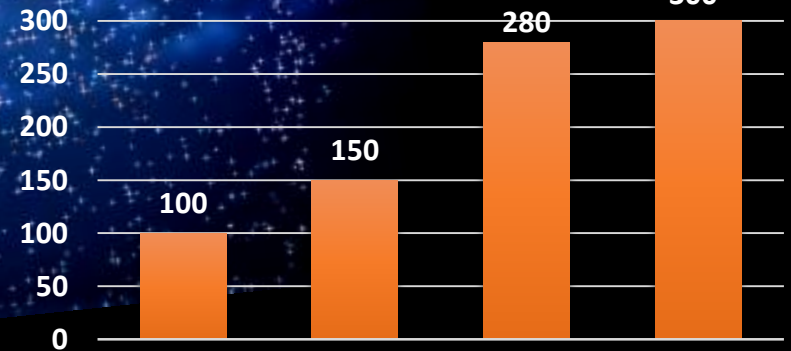
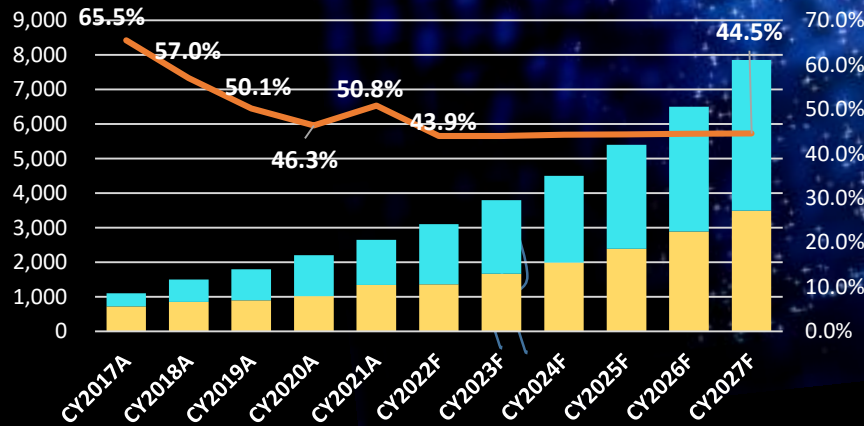
生産能力を2021年度対比 **約2倍** に増強する計画

2022年度 売上 **125.7** 億円 見込み

2023年半ばから市場回復による **売上拡大**

ニアラインドライブHDDの当社生産能力計画

データストレージの容量需要推移

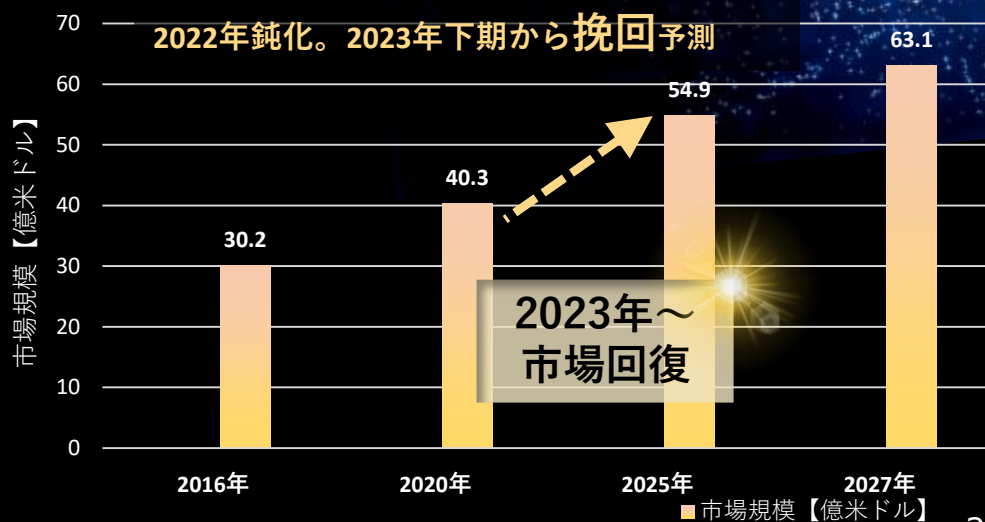


2018年度 2021年度 2024年度 2025年度
■2018年度の生産能力を100とした際の生産能力

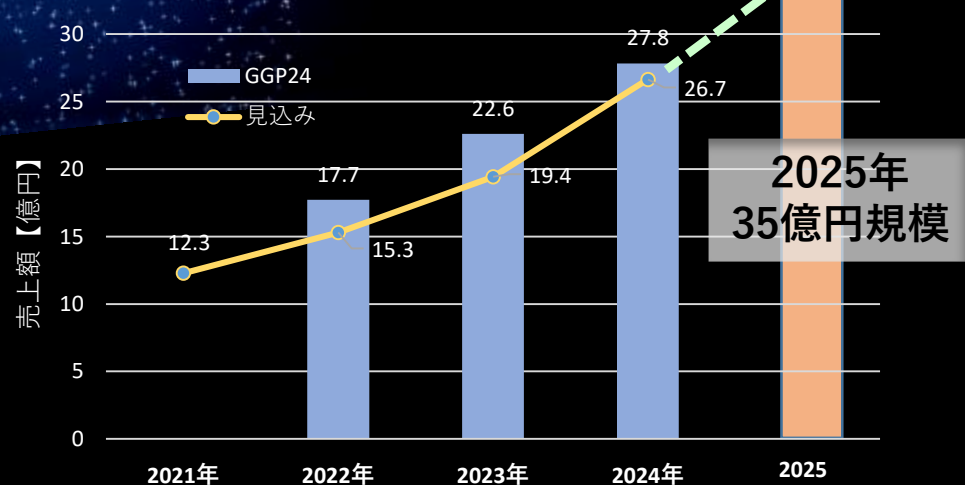
高密度化が求められる光通信ファイバー市場。



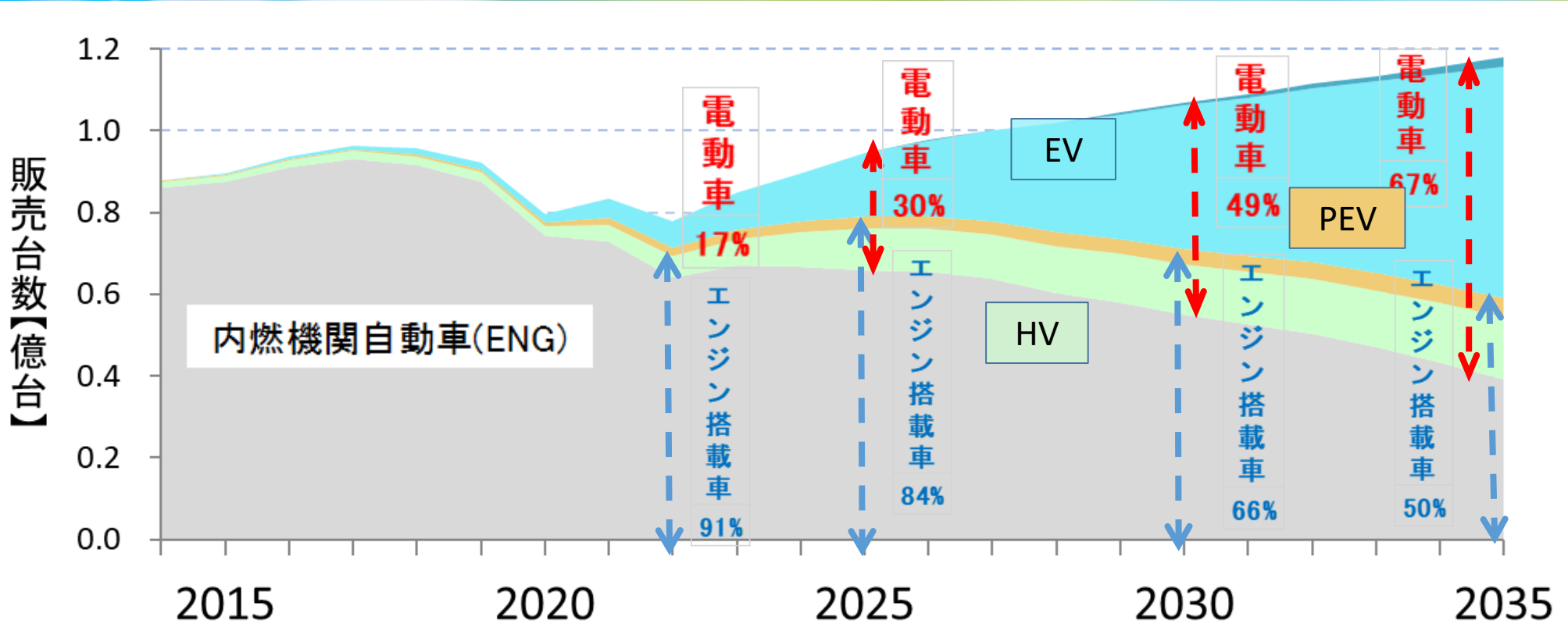
世界の光コネクタ市場予測



光通信コネクターGGP24比売上【億円】



2030年、EV化の世界に向けて

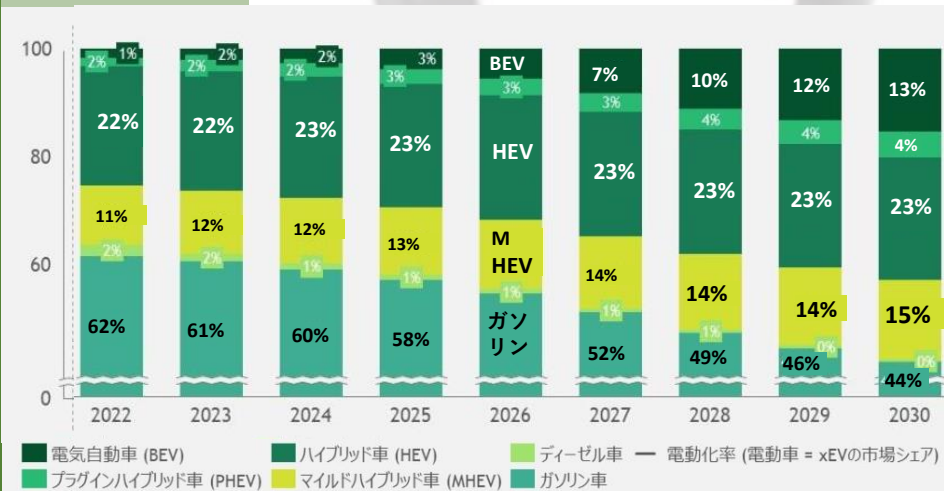


【Data Source : FOURIN & Marklines】

	2022年	2025年	2030年	2035年
電動車	FCV: 0%	FCV: 0%	FCV: 1%	FCV: 2%
	EV: 8%	EV: 16%	EV: 33%	EV: 48%
	PHV: 3%	PHV: 3%	PHV: 3%	PHV: 4%
	HV: 6%	HV: 11%	HV: 12%	HV: 13%
	ENG: 82%	ENG: 70%	ENG: 51%	ENG: 33%

2013年量産開始。国産ハイブリッド車を支えてきたEV事業の柱です。

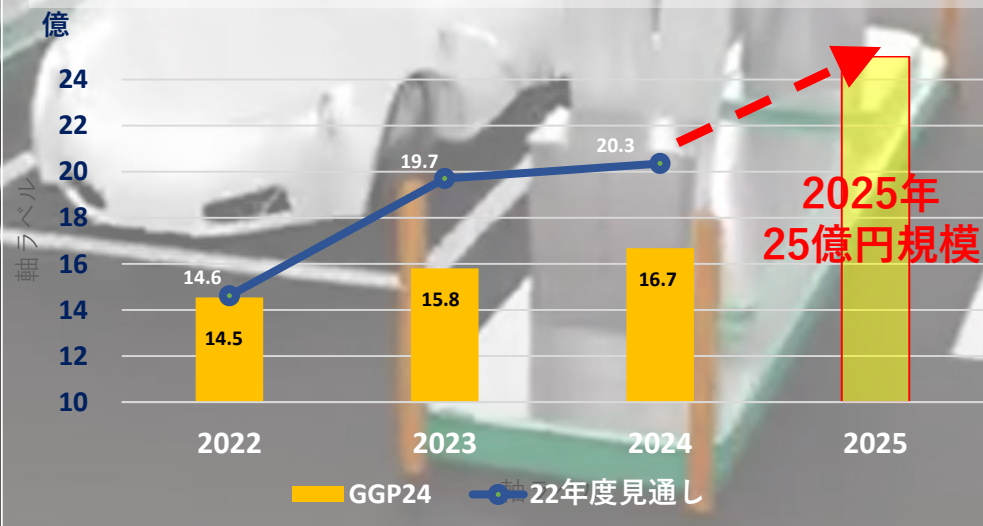
～2030年 国内新車販売台数の割合 (%)



日本ではハイブリッドは引き続きシェアを維持する

日本での新車販売台数における電動車の割合は、2025年までに40%を超え、2030年に55%となると見込んでいます。日本では、ハイブリッド車 (HEV) のシェアが2019年時点で既に22%を占めており、2030年でも23%と引き続きシェアを維持すると予測されています (世界では2030年に7%)

HEV/EV用BUSBAR GGP24比較売上見込み(2022-2024)



2022年度から国内自動車メーカー2社 (EV・HEV車) へ新規品 量産採用

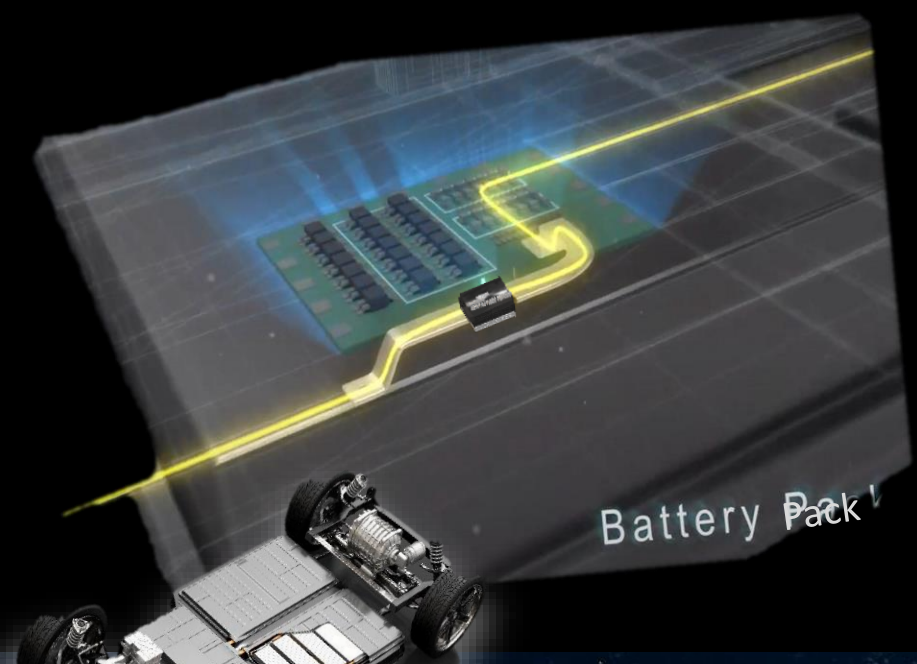
欧州・米国・中国。電動化の進む海外EV車での採用で急加速。



Industrial



Energy



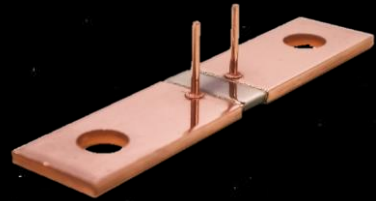
Battery Pack



EV

- 2014年 **シャント方式センサー開発**
- 2017年 国内向け電動フォークリフト採用
- 2017年 米国向けフォークリフト採用
- 2019年 NITE大型蓄電試験施設採用
- 2019年 国内向けHVTトラック採用
- 2020年 太陽光発電蓄電池システム採用
- 2020年 欧州向けAGV(自動搬送機) 採用
- 2021年 欧州EVレース車採用
- 2021年 北米EV乗用車採用
- 2022年 **コネクタータイプ開発**
磁気式センサー開発

今年8月に新製品コネクタ付きシャントをリリース。シャント方式に加え、新たな方式である磁気式センサーを開発しました。



Shunt Busbar



Shunt Sensor



Shunt Busbar Connector-type

2022年8月リリース。
PCB(基盤)を直接搭載し精度UP。端子ピンいらずでワンタッチで接続できます。

Dual sensor Shunt & magnetic

さらにシャントと磁気ダブル計測センサーも開発中。



2022年12月リリース予定。

磁気方式にて非接触で大電流を検知できる画期的なセンサー。
消費電力の少ないエコなセンシングを実現しました。

SUNCALL Magnetic current Sensor

EV先進地域でのグローバル戦略の基盤を固めます。

2023年新拠点へライン増設
生産能力1.8倍へ増強

中国

2020年 SGT(サンコール広州貿易会社)へ
シャント販売会社の設置

さらなる能増ライン

※国内選定中



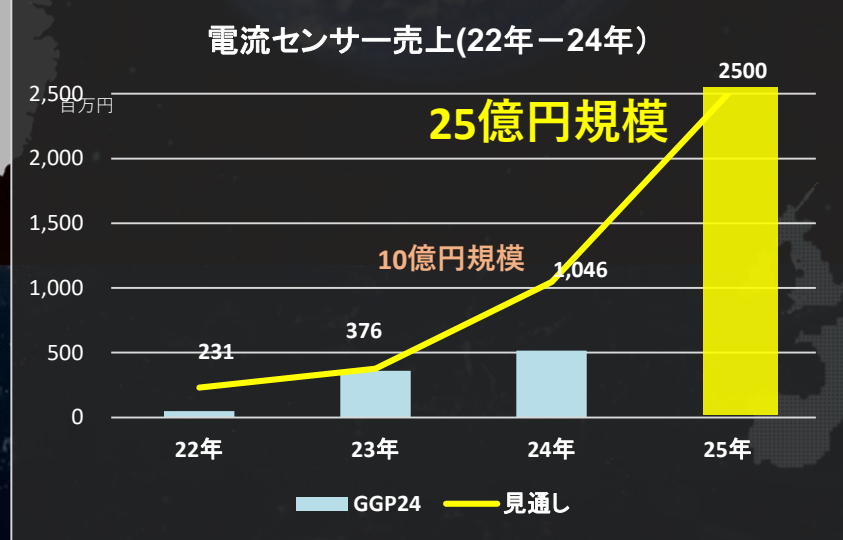
北米

9月 北米展示会
2023年 営業事務所開設
(構想中)

欧州

2022年
6月 Battery show出展
11月 Electronica show出展

2023年
4月 ドイツ販売会社
Suncall Europe **設立決定**



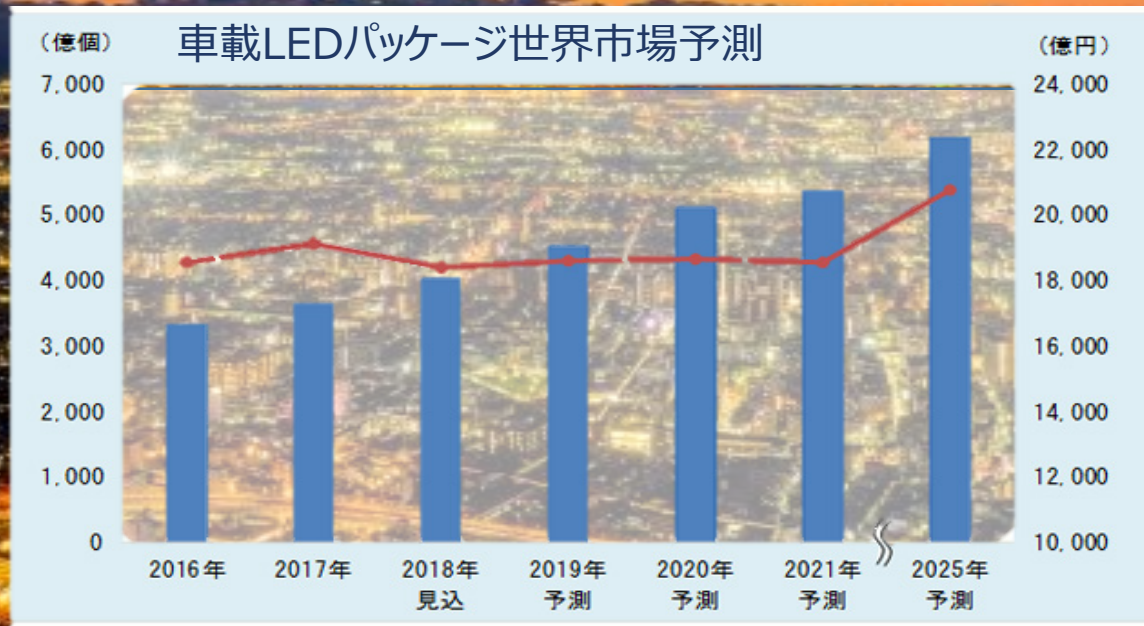
2021年から量産開始した新事業。LEDの小型・薄型化実現に寄与。

自動車分野におけるLEDは、近年急速に普及しており、すでに高級車や一般大衆車のみならず、新興市場向け車両でも採用が進みつつあります。



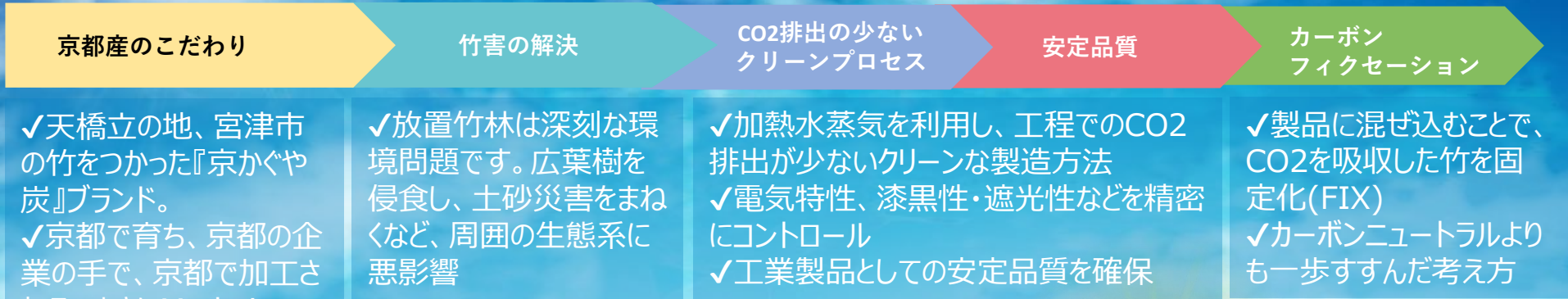
➤ 車載LED基板の量産化成功

➤ 2025年売上見込み 10億円



■カーボン・フィクセーション(炭素固定化)をめざして

車載インパネ(インストルメンタルパネル)塗料・内装品タッチパネル事業から更なるアプリケーションへ



文科省COIプロジェクトのひとつとして、京都大学と共同研究開発した歩行学習支援ロボット。

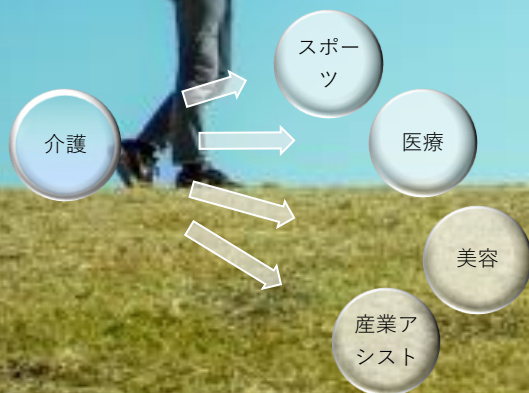
2020年に介護機器モデルとして発売、
2022年には無線タブレットタイプを新発売。

全国のリハビリテーション施設だけでなく、老人ホーム等介護施設で採用され、好評をいただいています。

装着イメージ



◇さらなるサービス展開を計画中。
歩きたい、という願いを取りこぼさない。



オルソロボットでのリハビリ風景
(無線タブレットタイプ)

【ご注意】

本日の説明資料には、当社の事業に関する業績見通し、将来の計画・方針等に関する記述が含まれていますので、株券等の取引を行う際には、金融商品取引法その他の法令の遵守をお願い申し上げます。また、将来予想は、現時点で入手できる情報に基づき作成しており、既知または未知のリスク・不確実な要因等を含んでいるため、当社の実際の業績、事業活動や財政状態が、将来予想の内容と大きく異なる場合がありますが、そのような場合であっても当社は、将来予想の内容を更新または修正して公表・開示する責任を負うものではありません。



公式サイト・SNS等

[ホームページ](#)

[Twitter](#)

[YouTube](#)

動画の完全版はこちら

電流センサー

リハビリロボット